

ファンがつくる 金沢競馬をもっと楽しむ情報誌

遊馬^{plus}

2022年11月

おかげさまで

vol. 50

※ご意見、ご感想をお寄せください
宛先 E-Mail: yushun.plus@gmail.com
<http://sites.google.com/site/yushunplus/>

協力: 金沢ホースマンクラブ
協賛: 金沢競馬振興協議会
発行者: 遊馬プラス編集部

無料

ご自由にお持ちください

www.kanazawakeiba.com

マイネルリリーフ
(父ゴールドシップ)



変わり続ける、とこういこと

昨年はJBCがあり大いに盛り上がった金沢競馬。だが前回のよう
に、いつときは注目されるもすぐに
元の金沢競馬へと戻っていくのだから……そう思っていた。

しかし今年の金沢競馬は、次々と
目新しい事を仕掛けていった。

まずは八月に第一レースの三連単
の払戻率を八十%に増やす「金沢競
馬プレミアム・ワン」を実施。この
三連単の払戻率アップのキャンペーン
は十月に十二時台のレースが同じ
く八十%になる「金沢競馬ランチタ
ムプレミアム」と続いた。

変化は馬券関係だけではない。少
し変わったアイデアのレースも組み
られていた。

敬老の日に開催があるのを生かし
て八歳以上の高齢馬限定競走の「敬
馬賞」。C級のレースとは言え、往
年の重賞馬マイネルリボン（十二
歳）などの大ベテランが揃い、熱い
レースを見せた。ちなみに勝ったの
は最年少牝馬（それでも八歳）のゴ
ルドスペアーだった。

高齢馬限定の後は、元体育の日
だった十月十日に行われたC級の
「若い力カップ」。三歳重賞が全て終

わった後に開催されるという異例の
三歳限定の競走だった。

そんな変わったレースが行われる
事で、金沢競馬が発信する情報量も
多くなっていく。その情報発信にも
大きな変化が見えた。七月からス
タートした「金沢競馬モーニング・
ジョッキー・プレミアム」だ。

これまでスポットライトを多く浴
びてきた吉原騎手、藤田騎手はもち
ろんだが、鈴木騎手、服部騎手と言っ
たいふし銀の活躍を見せる騎手も登
場して、知られざる素顔を垣間見せ
る配信番組だ。

騎手たちの普段はあまり聞けない
話が聞けるとあって、金沢競馬をよ
く見ているファンが注目する番組と
なっている。YouTubeでタイ
ムシフト配信でも見る事もできるの
で、見た事ない人は是非見てほしい
番組となっている。



さらには地上波のテレビ番組の収
録が行われたり、YouTubeバーを
招いての配信があったり。金沢競馬
からの情報発信の新機軸が次々と打
ち出され「どうした金沢競馬」と思っ
ていた矢先。

これらの集大成と言わんばかりの
大イベントが、十一月二十日（二三
日）に行われる「ウマ娘プリティ
ダービー」とのコラボ企画だ。

夏ごろにコラボも、と言う話が持
ち上がって「本当か」と半信半疑だっ
たが、秋に突如実現することとなっ
て競馬ファンを驚かせた。

当日は出演声優によるトーク
ショーやパネル展示などがあるが、
その中にいずれもC級で芦毛馬限定
の「金沢参上！ ゴルシ記念ー！」
と栗毛馬限定の「ようこそウマド
ル！ ファル子記念」の競走が行わ
れる。

これまでの限定競走や今までに無
い動きはこれの前フリだったのか、
と思うほど。この日はこれまで以上
に金沢に注目が集まる三日間とな
り、新たな人々たちへの情報発信の機
会となるだろう。

なお来年は薄暮開催が行われる予
定で、その工事も始まっている。
変化は今年限りと言う事はなく、
今のファンを楽しませ、ファンでは
ない人を振り向かせるような変化を
続け、他場に負けない競馬場として
これからも続いて行ってほしい。



北國王冠も終わり、金沢競馬の重賞も残すは金沢ヤングチャンピオンと中日杯のみ。

時期的にも今年を振り返るにはちょうどいい頃合い。今年金沢競馬をよく見た人も最近から見た人も思いに残った事を挙げて行こう。

今年も強かった。上がる凱歌に虹が立つ「ハクサンアマゾネス」

昨年引き続き金沢の顔となったのがハクサンアマゾネス（牝五歳）。今年だけで重賞五勝。馬券圏内を外したのは白山大賞典のみ。地元馬限定重賞に限れば先着を許したのはファストフラッシュのみと言う正に地元を敵なし。



ハクサンアマゾネス Photo by ベ

このままでも十分に金沢のトップに君臨し続けそうだが、さらなる高みを目指す為なのか、変化を見せる。

先行、あるいは逃げの戦法のイメージが強かった彼女だが、お松の方賞では最後方に近い位置からレースを進め、最後は堂々と差し切って一馬身離しての優勝。

様々な可能性を見せての勝利はまだ叶っていない他場での重賞制覇も期待はできそうか。来年も彼女の時代は続きそうだ。

打倒アマゾネスへ。若い力と感激に「スーパーバンタム」

今年強さを見せたのはハクサンアマゾネスだけではない。

スーパーバンタム。母方の曾祖父にアグネスタキオンがいる栗毛の三歳牝馬が強さを見せた。

二歳時は重賞にあと一歩届かずもどかしいレースが続いたが、三歳になると連勝街道を驀進。

ノトキリシマ賞、北日本新聞杯と三歳重賞を制覇していくと石川ダービーで後のサラブレッド大賞典馬スターフジサンに三馬身つけて圧勝。

金沢の三歳に敵なし、とばかりに勇躍園田へ遠征、西日本ダービーに出走すると一番人気に推されてクビ差で優勝。初の金沢競馬所属馬の優勝となった。

これで八連勝。次走はハクサンアマゾネスのいるお松の方賞。



スーパーバンタム Photo by ベ

最強女傑と最強三歳の対決が大きな注目を集めたが、結果は四着。

しかし、彼女が先着を許したのは愛知と笠松勢でハクサンアマゾネス以外の金沢勢には先着を許していない。

ハクサンアマゾネスも初めて古馬と対戦した時は三着に敗れ、そこからトップへと上り詰めて行った。

来年、この二頭の牝馬が金沢でのぎを削り、他場へも対決が持ち込まれていくのか、楽しみだ。

未来を見つめる瞳明るい「ショウガタップリ」

デビュー前は変わった名前と話題になったがデビューするとその強さで話題になったショウガタップリ。

デビューから無敗で突き進み、五連勝で初重賞を飾り、六連勝で他場から

らの遠征馬を破り金沢の二歳では敵なし。デビューからの戦績では前出のハクサンアマゾネス、スーパーバンタムを凌駕するスター誕生と言えよう。

来年は地元で無双か遠征か。スーパーバンタムに続いて西日本ダービーを金沢勢で連覇するか。

金沢のファンの夢が大きく広がる一頭だ。

様々な舞台へ挑戦！ 燃えよ若人胸を張れ。金沢勢の挑戦

今年盛岡で行われたJBCクラシックにサンライズハイアー（牡六歳）とジェネラルエリア（牝五歳）が挑戦。



サンライズハイアー Photo by 綾方きしん

金沢勢の新たな挑戦という期待を受けて健闘するも、サンライズハイアーが十三着、ジェネラルエリアが十五着と残念な結果となった。



ジェネラルエリア Photo by 綾方きしん

また、同じ日の同じ盛岡で行われた芝のOROカップには佐藤厩舎のトウシヨウドラフタ（牡九歳）が出走した。

十四頭中の九番人気と人気はあまりなかったが、そこは中央の重賞馬。並み居る中央の実績馬相手に後方から鋭く差して掲示板まで半馬身差の六着。二着馬とは〇・四秒と大健闘の走りを見せた。

これまで他場への挑戦自体があまりなかった金沢競馬。しかし、今年是他場の大舞台にも顔を出すようになって行った。

結果はなかなかすぐには伴わないが、気落ちしたりせずに挑戦を続けて、その経験がいつかは。そう思っ

て見守ってゆきたい。来年は、どこのどのレースに金沢所属馬の名が現れるのだろうか。金沢競馬の楽しみ方がまた一つ増えそう